

「アフターコロナのインドネシアからの報告」

中川 智明

＜インドネシアの家を2年半空けるとどうなるか＞

一時的にビザ更新のためにジャカルタに来たこともありましたが、本格的に自分のアパートに戻ったのは2年半ぶりとなりました。空港の混雑は以前よりはなく、入国は比較的スムーズでした。

これまでの経験から、2年半も家を空けると、おそろしくいろいろな面倒な事が起こっており、それに対処するのに3日くらいは必要だろうと想定していました。

こういう情報はネットにもないと思いますので、ご紹介します。

1. 「電気や水道を止めないでくれ」と事前に管理会社に連絡していましたが、水が止まっておりシャワーが出来ませんでした。
2. 部屋は長期間掃除をしていないため、床がホコリか何かで黒ずんでいました。壁材が日本と違うためか、黒いススのようなものが床に積もっていました。
3. 冷蔵庫が壊れており、全く冷蔵されていませんでした。
4. 部屋のインターネットが止まっていました。なぜこのタイミングで止まるのか、インドネシアあるあるです。
5. 私のインドネシア SIM の携帯電話が全く通じなくなっていました。結局、一晩ネットなしの環境で過ごしましたが、これが一番辛かったです。私が確認した限りでは、2020年の前半頃の規定で外国から持ち込んだ携帯電話は税関でインドネシア政府への登録が必要になったとのことでした。

この点、皆様にはしっかり詳細を確認してからインドネシアに渡航されることをおすすめします。

これらのトラブルには、1つずつ対応しました。インターネットは翌日復旧し、SIM問題は弊社スタッフも総出で対応しました。

＜この経験から学べること＞

日本でも似たようなことはあるのかもしれませんが、私個人の認識として、インドネシアでは以下のような状況ではないかと思います。

- ① 何かを事前に電話等でもお願いしても、50%（イメージ）の確率で実行されない。
- ② 部屋や建築物など、物の劣化、汚れ、壊れるまでの期間は、理由は不明だが圧倒的に日本より悪い状況である。
- ③ 中央及び地方政府は、市民の都合関係なく次々にルールを変更する。そして、その変更の告知や周知の程度は非常に低くて弱い。

＜ジャカルタの街の状況＞

数日後に、ようやくジャカルタの街に出ました。インドネシアは、事前のPCR陰性証明等も必要なくなり正常化しています。若い人が多い人口構成からもその力強さを感じていましたが、ジャカルタの街は8割くらいのレストランや小売店が閉まっており、当初の想定よりも確実にダメージを受けているようで驚きました。そのような事を気にも留めないのが、インドネシアの力強さそのものかもしれません。いまだにコロナ感染者がおり、現時点の状況は日本よりも酷いかもしれませんが、アフターコロナのインドネシアは立ち直って発展してゆくと思われます。



【閉店撤退が多く、地下レストランも店はまばら】